

平成29年度 あざみ野中学校 学力向上アクションプラン

(1) 学校経営中期取組目標

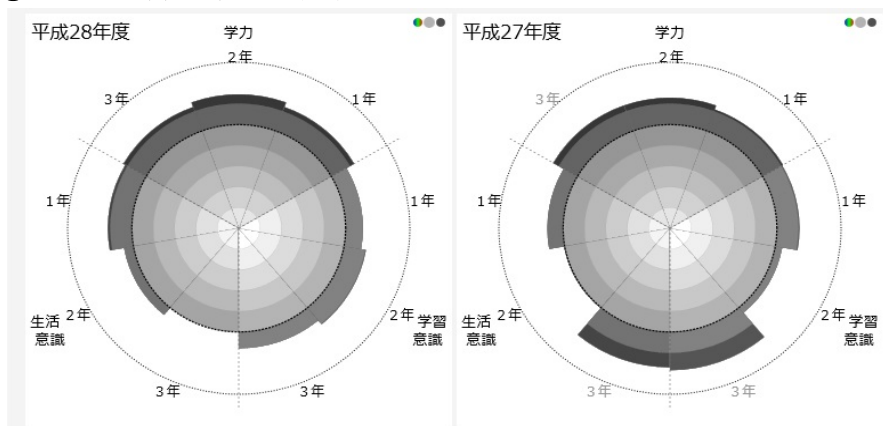
学校経営中期取組目標	
○「チームあざみ野」として全職員で「共有」「共感」「協働」を合言葉に魅力ある学校（「誰もが」「安心して」「豊かに」生活できる学校）づくりを目指します。	
・生徒を理解し、認め、励まし、一人ひとりを伸ばす教育を行います。	
・個に応じた指導を充実するとともに、「分かる授業」「魅力ある授業」の実践を目指します。	
・挨拶の励行によって、お互いに認め合う人間関係、思いやりのある心を育てます。	
・地域とのコミュニケーションを通して、信頼関係を深めていきます。	

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取組目標	具体的取組
確かな学力		自ら目的意識をもって主体的に学習に取り組む生徒を育成する。そして基礎基本の定着を図るとともに「魅力ある授業」を目指し、授業改善に努める。	各教科で指導主事を招いた研究授業・研究協議を行うようにし、教科内での共有を大切にしながら生徒が「分かる授業」づくりを目指す。 生徒による授業評価を実施し、集計結果をもとに、授業改善を行い、生徒が主体的に学習に取り組める「魅力ある授業」づくりを目指す。
担当	学習指導部 教科主任会		

(3) 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

① 学力の概要と要因の分析



学校全体において、学力、生活意識、学習意識とも良好な状況にある。教科等の学習においても、多くの教科で「教科の学習が好きですか」という質問に対して、「好き」または「どちらかといえば、好き」と回答した生徒が多かった。また「教科の学習はどの程度わかりますか」という質問に対しては「よく分かる」、「どちらかといえば、分かる」の合計が横浜市の平均を上回っているが、これは「1日どのくらい勉強しますか（塾や家庭教師を含まない）」という質問に「1時間以上」と回答した生徒が横浜市の平均を上回っていたり、「塾や家庭教師で勉強していますか」という質問に「している」と回答した生徒が市の平均を大きく上回っていたりといった、学習時間が確保されているという環境が要因と考えられる。一方で「教科の学習はどの程度わかりますか」という質問に対して「どちらかといえば、分からない」、「分からない」と回答している生徒が1～2割程度いることから、各教科とも授業方法等の改善の必要性があると考えられる。

（記述の学年は28年度時点のものである）

② 教科学習の状況

- 国語科：全ての観点で市の平均を上回っており特に2年生の「書く能力」の観点は大きく上回っていた。
- 社会科：全ての観点で市の平均を上回っていたが特に2年生の「資料活用の技能」の観点は大きく上回っていた。
- 数学科：全ての観点で市の平均を上回っており1年生の「見方・考え方」、2年生の「知識・技能」の観点は他の観点に比べ大きく上回っていた。
- 理科：ほとんどの観点で市の平均を上回っていたが1年生の「技能」の観点は市の平均を下回っていた。
- 英語科：全ての観点で市の平均を上回っており特に2年生の「表現」の観点は大きく上回っていた。

③ 経年変化の状況と要因の分析

学校全体としては「学力」に比べ「生活意識」・「学習意識」への低下が見られるが、概ね良好であるといえる。この結果に甘えることなく、各教員が授業力を向上し、魅力ある授業の実践を進める必要がある。